

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

社会への入口となる高等支援学校として、生徒たちの多様性や教育ニーズに対応し、自他の理解を深め、コミュニケーション力、向上心及び協同性を備えた人材を育てる。

【めざす学校像】

- 生きる力を育む学校
- 地域に開かれ、信頼される学校
- 安全で、安心できる学校

【めざす生徒像】

- 互いを思いやり、相手の立場を尊重する生徒
- 粘り強く挑戦し、学び続ける生徒
- 地域とつながり、社会に貢献していく生徒

## 2 中期的目標

## 1 公の中で個を磨く教育の推進

## (1) 「知・徳・体」バランスのとれた教育の推進

- ア 普通科及び専門学科の特色を生かした確実な知識・技能の修得を図る。
- イ 互いを思いやり、相手の立場を尊重する生徒を育成する。
- ウ 各生徒の健康の増進に努め、体力の一層の向上を図る。

## (2) キャリア教育の充実・発信

- ア 進路関係機関と適切に連携し、生徒、保護者に適切に情報を提供する。
- イ 個々の生徒の希望と適性に応じた進路実現を図る。

## 2 学校・保護者・同窓会・地域が一丸となった教育の推進

## (1) みんなが安全で安心できる教育の推進

- ア 手洗いの励行や換気など基本的な感染症対策の徹底を図ると共に、健康増進に向けて組織的・計画的に取り組む。
- イ 災害時等においては、地域やPTA・同窓会と一層連携・協力し、適切に対応できるよう、危機管理体制を構築する。

## (2) 地域とつながる教育の推進

- ア 地域に根ざした学校づくりを進め、青年期の課題啓発・改善を図る。
- イ 地域に対して、手話の普及に努め、聴覚障がいへの理解とコミュニケーションを図る。

## (3) 本校の取組み及び聴覚障がいについて広く発信し、社会における聴覚障がいについての理解を促進する。

- ア 地域連携支援室を中心に、地域支援や理解啓発活動の充実を図る。
- イ 学校紹介等の広報活動を継続的に行う。

## 3 教職員の資質・能力・専門性向上

## (1) ICT機器(タブレット型端末・文字情報システム・電子黒板等)の活用スキルの向上

- ア 教職員のICTスキル、個人情報保護を含めた情報モラル向上の一層の促進を図る。
- イ 「令和3年度学校経営推進費」(約500万円)を活用した「いつでもVR」事業は終了したが、360°カメラやVRヘッドセットなどを活用してVR・AR教材開発し、聴覚支援教育の発展の一助とする。
- ウ 手話能力の向上を含めた、授業力及び指導力育成の一層の充実
- エ 聴覚障がい教育における授業改善のあり方を研究し充実を図る。
- オ 外部人材等の有効な活用を一層促進する。

## (2) 授業力及び指導力育成の一層の充実

- ア 聴覚障がい教育の授業改善
- イ 外部人材活用の充実
- ウ 教職員研修の充実

## 4 働き方改革の推進

## (1) 働き方改革の一層の促進

- ア 校務の効率化を図り、働きやすい職場環境を整備して教職員の健康管理体制を一層充実させる。
- イ 教職員の時間外在校時間の縮減を継続的に努める。
- ウ 年次休暇率の向上

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 回収率 生徒 92.1% (59/64) 回収 保護者 85.9% (55/64) 回収 教員 95.1% (55/58) 回収</p> <p>2 満足度 ( ) は R5・R4 生徒 87.5% (84%・81%) 保護者 93.2% (93%・93%) 教員 90.7% (89%・87%) 調査はA「そう思う」・B「どちらかといえばそう思う」・C「あまりあてはまらない」・D「まったくあてはまらない」から選択する方法で行い、A または B を選択した割合 (%) を「満足度」として分析した。</p> <p>【生徒回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活全般に対する満足度は高く、特に「15. 授業の内容が分かりやすい (98.3%)」や「16. ICT 機器の活用 (100%)」が好評だった。DX ハイスクールや万博 STEAM 教育など、先進的な教育環境を提供できたためと考えられる。</li> <li>・進路指導や障がい理解に関する評価も非常に高く、「5. 進路指導 (96.6%)」や「13. 障がい理解 (98.3%)」で高評価となった。</li> <li>・一方、「22. 災害時の行動指導 (61.0%)」や「23. 図書室の充実度 (50.8%)」が低評価で、改善の余地がある。具体的な避難訓練の強化や、図書資料の充実を図ることで、更なる安心・安全な学習環境の提供をめざしていく。</li> </ul> <p>【保護者回答】より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「12. 教育情報の提供 (100%)」や「11. 生命尊重・社会ルール教育 (98.1%)」への満足度が高く、保護者の信頼感が表れている。</li> <li>・「3. 授業のわかりやすさ (87.3%)」や「4. ICT 機器の活用 (96.4%)」が評価され、教育環境の充実が好意的に受け止められている。</li> <li>・一方で、「6. 生徒指導 (遅刻・服装など) (87.3%)」や「14. PTA 活動 (84.9%)」への評価はやや低下した。校則の見直しや周知をする際に、生徒が主体的に参加し、互いに理解を得た上で指導をしていくようにする。PTA 活動においても、保護者と教員で連携を取りながら、更なる充実を図る。</li> </ul> <p>【教職員回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「5. ICT 活用 (98.1%)」や「10-14. 進路指導への取り組み」が高評価で、改善が継続された。</li> <li>・「2. 職員間の相談や信頼関係が良好 (90.9%)」で、以前より改善された。教員研修におけるブレインストーミングの実施など、教員で校内の取り組みや課題について相談する機会を設けたことが一因と思われる。</li> <li>・「19. 地域発信 (85.2%)」や「4. PDCA サイクル (71.7%)」などの項目では、満足度がやや低下した。地域手話講座の更なる充実や、分掌業務の見直しなどを推し進めていく。</li> </ul>	<p>第1回学校運営協議会 令和6年5月30日 10:00～</p> <p>1) 主体的な学びとコミュニケーションについて 対話的というものもあるが、対話的、が聴覚障がい者には特に大事。他の県ではクラスに一人の学校もある。先生と子どもの対話だけで進んでしまうということが多くなっている。それを進めていくと、お互いに対話しながらコンセンサスを作るというのが苦手になる。普通科のコース、自立コースなどあるが、横並び、縦割りの交流場面を作る必要がある。会社ではろう者ばかりではなく、肢体不自由、精神障がい、発達障がいもある。いろんなろうの人がいるが、ひとつのキーマンがいて、その人が各自の特性を理解しているから成り立っている。</p> <p>2) 学び合いについて 聴覚障がい者同士で意思が通じ合わない、自分を出しすぎる人もいる。コミュニケーションの難しさがあり、健聴者同士で理解する以上の難しさがあるので、いちがいに自分の主張だけでなく、他者理解も必要かと思う。工夫が必要と思う。 個別性も大事だが、お互い学び合うことも必要。自己肯定感が低いと他者理解も出きないので、自己肯定感、自己理解を高めて学校生活を送ってほしい。</p> <p>3) 就労について ろうの雇用をしたことがないから、と断られることもある。今アマゾンがアレクサを使っているが、ろう者がアレクサの能力を伸ばそうとすることを言っており、ろう者は文章力が高いでしょ、という誤解もある。</p> <p>4) DX 事業について 大学から、どういう音声認識ソフトを使っているかの質問がある。今は、文科省のおすすめなどを伝えているが、学生からは、漢字の誤変換が多くあると声があるが、学生が自分で正しい漢字に変換できるようになってほしい。</p> <p>第2回学校運営協議会 令和6年11月7日 10:00～</p> <p>1) 生徒のみだしなみについて [企業側からのご意見]面接で髪型や化粧は意識してみているが、仕事するにふさわしくない髪型や化粧はダメなので、どういうのが自分に合っているか考えていると思う。社会人になるとそうなるから、学生時代は、化粧禁止はそこまでしなくても、個人的には思う。 面接ではきっちりして来られるので、意識していない。高校生の化粧については、朝の時間や身だしなみ、髪を染めるのも周りをみて考えればと思う。面接では短い時間で印象を見るので、周りに悪影響さえないかと思っている。 [就労支援側からのご意見] 就労支援では、印象は大事にしている。合格している人の様子をみていると、コミュニケーションの仕方が、アサーション的にできる人が合格している。人のせいにするのではなく、自分の理解が足りないのもう一度お願いします。と、いう「言葉の身だしなみ」が大事。質問がわからなかったとき、へりくだって言うのが大事。キャリアセンターが「就活に勝つメイク講座」などを行っている。学生側は身だしなみをキチンとしないと指導をしている。</p> <p>2) スティーム教育について 多くの意見からまとめていくファシリテーション的なことが苦手なので、自分の願いや意見を書いて、他の人の意見を聞くというのがよいと思う。</p> <p>第3回 学校運営協議会 令和7年2月13日 10:00～</p> <p>1) 防災について 先生と生徒の評価が乖離している。会社で満足度調査するが、数字だけでなく、コメントをみてヒアリングもする。コメントを掘り下げると、ヒントが出てくる。</p> <p>2) 文章力 健聴者よりも文章力が重要で、「音声認識文字表示システム」をつかっても意味を理解していないので、手話ができる人がいないと話が伝わりにくい。読み書きの力が必要だと思う。</p> <p>3) 経営計画について 評価指標の数値を目標に設定されているが、本当にめざす姿はそれをやってどうなったかに目を向けなければいけない。計画は振り返るときに、できなかった部分に目を向けることで、改善の種がある。 重点目標を各先生方が運用しやすくなっていて、計画に沿った教育をしやすい形になっている。教科間の連携もあって、みんなで評価する。計画を運用するにあたって、相互連携できると良い。 だいせんは生徒の評価が高い。大切なのは、学校に対してワクワクした気持ちが持てるかどうか。学校は、子どもが集まってナンボの世界で学校に通えない生徒もいる。逆にいえば、だいせんに来る前は満足度が高くなかったのかと思ってしまう。年々上がっているのが大事。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 公の中で個を磨く教育の推進	<p>(1) 「知・徳・体」 バランスのとれた 教育の推進</p> <p>ア 確実な知識・ 技能の修得</p> <p>イ 互いを思いやり、 相手の立場 を尊重する生徒 の育成</p> <p>ウ 生徒の健康の 増進、体力の 向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の自学自習を促進するため、図書室の学習環境をさらに整備し、読書への興味・関心を高めるとともに放課後学習等を継続的に促進する。 ・各職業学科において、より専門的な技能を身に付けるため、学科に応じた資格取得の奨励を一層促進する。 ・ICT機器を活用し、わかりやすい授業の推進</p> <p>イ・生徒の主体性を一層引き出すため、英語科及び生徒自治部を中心に、多文化共生教育を推進し、国際交流、高大連携、地域連携を実施する。 ・人権教育委員会・いじめ防止対策委員会及び国語科が中心となって、人権尊重の教育を促進するため、人権作文等のコンクールを生徒に啓発し積極的な応募を促す。 ・前年度の実施内容を踏まえ、本科、専攻科の各学年で状況に応じた「人権LHR」を継続的・計画的に実施する。 ・人それぞれが互いに違いを認め合い尊重する心を養うため、健康安全部を中心とした性教育講演会や毎月の全校集会での校長講話で命の大切さや社会のルールについて理解を深める。</p> <p>ウ・生徒自らが自身の健康・体力の増強について意識が高まるよう、身体と心の健康、体育的行事についての指導を組織的・継続的に行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生) 図書室利用関連項目 55%以上 [54%] ・(生) 資格取得関連項目 85%以上 [84%] ・(保) ICT活用関連項目 95%以上維持 [93%]</p> <p>イ・国際交流を一層推進するため、T-NETを活用した外部人材による講座を月2回程度、年間で20回以上実施する。 [20回] ・様々な「人権作文」コンクールに応募する生徒、のべ15人 [12人] ・各学年単位で3回以上実施する。 [各学年3回] ・(生) 命、社会ルールの関連項目 95%以上 [93%]</p> <p>ウ・(生) 健康管理関連項目 90% [89%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・(生) 図書室利用関連項目 51%(△) ・(生) 資格取得関連項目 79%(△) ・(保) ICT活用関連項目 96%(○)</p> <p>イ ・T-NET20回実施済み ・堺市人権メッセージに19名応募、うち1名特選 大阪府人権作文4名応募(○) ・人権LHR3回実施(○) ・(生) 命、社会ルールの関連項目 88%(△)</p> <p>ウ ・(生) 健康管理関連項目 86%(△)</p>
	<p>(2) キャリア教育の 充実・発信</p> <p>ア 進路関係機関と 適切な連携により 正確な情報による 進路実現</p> <p>イ 生徒・保護者の 進路ニーズに応じた キャリア教育の推進</p>	<p>(2)</p> <p>ア・進路指導部が中心となって、職業適性検査、就職準備試験等を行い、適切な進路指導を実践する。 ・生徒、保護者に対して進路に係る必要な情報を適切な時期に提供する。 ・進路指導部を中心として、アフターケア・定着指導の充実と企業等と築いてきたネットワークを継続的なものとする。</p> <p>イ・各生徒が卒業後の具体的な将来像(目標)を描けるようになるため、「先輩の体験を聞く会」、「公開進路報告会」を計画・実施する。 ・学年別職場見学会、職場体験実習、障がい者就職面接会見学(専攻科I年)、進路説明会保護者懇談、デュアルシステム(事前・事後学習)、面接指導、大学進学予定者講習会等を計画的に行う。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・(生)「希望する進路について丁寧に指導している」95%以上を維持 [96%] 「進路に関する必要な情報を十分提供している」項目 90%以上 [88%] (教)アフターケア・定着指導等関連項目 90%以上を維持 [93%]</p> <p>イ・「先輩の体験を聞く会」は2名以上の講師招聘し1回実施、「公開進路報告会」は1回実施する。 (生)「将来の進路や生き方について考える機会がある」項目 90%以上を維持 [93%]</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・(生)「希望する進路について丁寧に指導している」97%(○) ・(生)「進路に関する必要な情報を十分提供している」項目 93%(○) ・(教)アフターケア・定着指導等関連項目 95%(○)</p> <p>イ 11月9日実施 講師3名招聘(○) ・(生)「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%(○)</p>

2 学校・保護者・同窓会・地域が丸となった教育の推進	(1) 安全・安心な教育の推進	(1) ア・薬物乱用防止教室や性教育講演会、ほけんだよりを通じて、生徒に自己の健康について意識させるとともに、聴能の指導において自己の障がいについての理解を深めさせる。また、避難訓練時に、災害時、避難時に必要なことを周囲に伝えることができるセルフアドボカシーについて考える機会を持つ。 イ・危機管理についての意識向上を図るため、防犯と防災の両面から教員向け防犯研修、防災研修、生徒向け防災教育を実施する。 ウ・堺市の危機管理室と連携を取り、災害時の対応について協議を行う。	(1) ア・(生) 防災関連項目 90% [89%] (教) 健康・防災関連項目 94% [93%] イ・教員向け防犯及び防災研修を2回実施する [2回] ・防災 LHR を2回実施する。 [2回] ウ・堺市の危機管理室と協議の機会を1回以上持つ [2回]	(1) ア ・(生) 防災関連項目 61%(△) ・(教) 健康・防災関連項目 96%(○) イ ・教員向け防犯研修1回。防災研修1回実施(○) ・生徒向け防災 LHR 2回実施済み(○) ウ 堺市危機管理室1回来校(○)
	(2) 地域とつながる教育の推進	(2) ア ・地域やPTA・同窓会と連携した聴覚障がい者のための防災対応の整備・充実を図る。 ・生徒の災害ボランティア活動への意識を高め、参加を促す。 ・PTAと共同して地域の清掃活動に参加し、地域とのネットワークを深化させる。 ・地域の方に来校していただき、生徒と交流を図る機会を持つ。 イ・研究部が中心となり「地域向け手話講座」を実施する。また、地域の手話同好会に手話講師として参加し、手話及び、聴覚障がい理解の普及に努める。 ウ・PTA総会後に学年の教員と保護者が懇談する機会を持ち、学校や学年の取り組みについて、意見交換ができる機会を持つ。	(2) ア・災害関連を含め、ボランティア活動への参加、のべ15人以上 また、生徒のプレゼン力向上の為、校内外で事後報告会を実施 ・地域や保護者と連携して行う清掃活動を実施。2回以上 [1回] ・地域の方が文化祭で出演する機会をつくり、主体的に参加していただく 1回以上 [1回] ・地域の方と生徒が手話を通じて交流する交流会を実施1回以上 [1回] イ・地域向け「手話講座」初級、中級の実施、各10回 [各9回] 地域の手話同好会の講師を務める15回以上 ウ・保護者の「学校はPTA活動に積極的に取り組んでいる」92%以上 [91%]	(2) ア ・大阪府事業災害ボランティア活動に当選生徒応募15名あり、7名選抜して石川県に実施(○) ・清掃活動11/3実施 3月に第2回実施予定 ・地域の方による文化祭講演の実施(○) ・手話交流会1/28実施(○) イ・地域向け手話講座初級10回実施済み、中級講座9回実施(△) ウ・(保)「学校はPTA活動に積極的に取り組んでいる」85%(△)
	(3) 聴覚障がい教育のセンター的機能の充実	(3) ア・地域連携支援室が中心となり、聴覚障がい教育の理解啓発を一層促進するため、公開研修を実施し、高等学校及び聴覚支援学校(中高連携)等とのネットワークを広げる。 イ・地域支援コーディネーターが中心となり、地域中学校、特に難聴学級設置の中学校及び聴覚支援学校中学部に対し学校訪問やHP等を活用した広報活動を通じて聴覚障がい生徒の進路啓発を組織的・計画的に行う。	(3) ア・公開研修2回以上 [2回]、外部講師の研修3回以上 [3回]、聴覚障がい研修1回以上 [1回] イ・府内難聴学級を設置する中学への訪問60%以上 [57%]	(3) ア 公開研修2回実施、外部講師研修3回、聴覚障がい研修1回(○) イ 昨年度訪問した9校を除く15校中9校60%以上訪問(○)
	(1) 安全・安心な教育の推進 ア 危機管理体制の充実	(1) ア・薬物乱用防止教室や性教育講演会、ほけんだよりを通じて、生徒に自己の健康について意識させるとともに、聴能の指導において自己の障がいについての理解を深めさせる。また、避難訓練時に、災害時、避難時に必要なことを周囲に伝えることができるセルフアドボカシーについて考える機会を持つ。 イ・危機管理についての意識向上を図るため、防犯と防災の両面から教員向け防犯研修、防災研修、生徒向け防災教育を実施する。 ウ・堺市の危機管理室と連携を取り、災害時の対応について協議を行う。	(1) ア・(生) 防災関連項目 90% [89%] (教) 健康・防災関連項目 94% [93%] イ・教員向け防犯及び防災研修を2回実施する [2回] ・防災 LHR を2回実施する。 [2回] ウ・堺市の危機管理室と協議の機会を1回以上持つ [2回]	(1) ア ・(生) 防災関連項目 61%(△) ・(教) 健康・防災関連項目 96%(○) イ ・教員向け防犯研修1回。防災研修1回実施(○) ・生徒向け防災 LHR 2回実施済み(○) ウ 堺市危機管理室1回来校(○)

<p>3 教職員の資質・能力・専門性向上</p>	<p>(1) ICT 機器の活用スキルの向上</p> <p>ア ICT スキル、情報モラル向上の促進</p> <p>イ VR・AR 教材開発</p> <p>(2) 授業力及び指導力育成の一層の充実</p> <p>ア 聴覚障がい教育の授業改善</p> <p>イ 外部人材活用の充実</p> <p>ウ 教職員研修の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学力向上に向けたタブレット型端末と文字情報システム、アプリや電子黒板・プロジェクタ (ICT 機器) 等を活用した授業を推進するため、先進的に取り組んでいる教員の取り組みを紹介する研修を実施する。</p> <p>イ・GIGA 推進 PT 主体で、各教科における VR・AR 教材を活用した授業を推進するため高度な技能を有する教員の英知を結集するとともに、学校説明会等で保護者や見学者に活用事例を紹介する等、本校の PR に努める。 また、成果の周知について、校内でも発表機会を持つなど積極的に行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・研究部と指導教諭が中心となり、初任研、インターミディエイト研修及び 10 年研対象者等による研究授業、事後の研究協議を実施する。併せて、授業アンケートの結果を踏まえて授業力向上を推進する。</p> <p>イ・授業や生徒のニーズに適切に対応するため、定期的又は臨時に SC、SSW、臨床心理士、大学関係者、職業教育関係者等、外部人材の活用を促進する。 ・教員の資質向上のため、他府県等への講演、事例研究先進校等への参加を促進する。 ・研究部が中心となり、初任者・新転任者等、聴覚障がい教育の経験の少ない教員を対象に外部講師活用を含めて教員向け手話講座を実施する。</p> <p>ウ・研究部が中心となり、教員資質の一層の向上を図る為、いじめ、体罰、人権等の共通的研修をはじめ各自の教科等専門性に係る研修を計画的・継続的に推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生) ICT 関連項目 95%を維持 [97%]</p> <p>イ・(生) VR・AR 活用関連 85%以上 [84%] (教) VR・AR 活用関連 85%以上 [80%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・(教) 授業関連項目 95%を維持 [100%] 初任研、インターミディエイト研修及び 10 年研の対象者等による研究授業を各 1 回以上</p> <p>イ・(教) 外部人材活用関連項目 80%以上 [79%] ・(教) 外部研修関連項目 75%以上 [74%] ・(教) 手話関連項目で肯定的評価 95%を維持 [97%] 教員向け手話講座回数 20 回以上 [22 回]</p> <p>ウ・(教) 教員研修関連 91%以上 [92%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・(生) ICT 関連項目 100%(○)</p> <p>イ ・(生) VR・AR 活用関連 78.0%(△) ・(教) VR・AR 活用関連 74.5%(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア ・(教) 授業関連項目 98.1%(○) 初任研、インターミディエイト研修及び 10 年研の研究授業各 1 回実施済 (○)</p> <p>イ ・(教) 外部人材活用関連項目 88.9%(◎) ・(教) 外部研修関連項目 80.0%(◎) ・(教) 手話関連項目で肯定的評価 92.7%(△) 教員向け手話講座回数 20 回以上 [22 回] (○)</p> <p>ウ ・(教) 教員研修関連 91%(○)</p>
<p>4 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 働き方改革の一層の促進</p> <p>ア 校務の効率化と働きやすい環境づくり</p> <p>イ 時間外在校時間の縮減</p> <p>ウ・年次休暇取得の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・業務内容の見直しと簡素化を促進するとともに、業務の偏りを改善し、教職員が働きやすい環境を構築する。</p> <p>イ・部活動方針の遵守に努め、教員の時間外在校等時間を縮減する。 前月の時間外在校時間が 35 時間を超えた職員と面談を行い、その原因を共に探ることで、時間外在校時間の縮減を図り、教職員の健康増進を一層促進する。</p> <p>ウ・年次休暇の取得率が低い職員に休暇取得を勧奨する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(教) 勤務に関する項目 78% [75%]</p> <p>イ・教職員の年間時間外在校時間 360 時間超 1 人 [3 人]</p> <p>ウ・年次休暇の取得率 70%以上の職員が 70%以上 [新規]</p> <p>※ (有給所持日数 - 20) × 0.7 を基準</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・(教)勤務に関する項目 74.8%(△)</p> <p>イ ・2 人 [△]</p> <p>ウ ・取得率 65% (△)</p>